

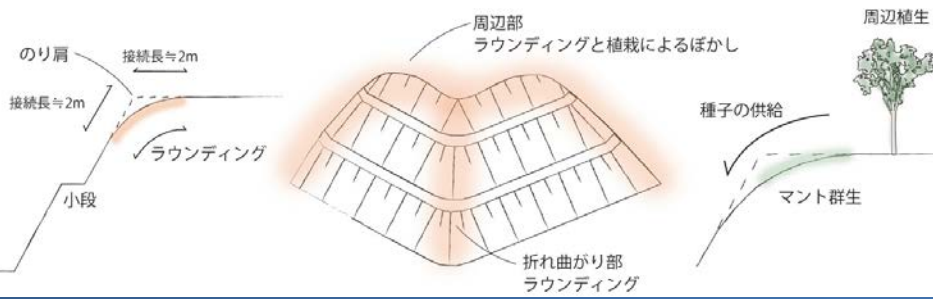
③ 切土法面整形

【技術者の匠の技】

大分川ダムでは、「地形改変を抑える」と共に「周辺地形との調和した形状とするため、切土・盛土の端部は緩やかに擦り付ける」という配慮のもと工事を進めました。

本工事箇所は、連続する法面のなかで、盛土法面と切土法面が接続する区間であり、各々の安定する法面勾配が異なるうえに、端部を緩やかに擦り付けるためのラウンディングも必要な施工箇所でした。現在、建設業界ではマシンガイドランスなどが導入されていますが、本工事箇所の直下には監査廊が近接しており慎重な施工が求められたため、重機オペレーターの操作技能により複雑な摺付けを可能にした施工技術です。

【景観整備方針】



【整備後】



【整備状況】

